

稲畑産業株式会社 2020年3月期決算 オンライン決算説明会 質疑応答要旨

日時 : 2020年6月4日(木) 10:00~11:00

説明者 : 稲畑社長、横田専務

【業績・配当見通し】

Q: 21年3月期の業績予想と配当予想を未定としているが、いつ頃、公表されるのか? また配当について、業績次第だが減配もありえるのか?

A: 海外17カ国約60拠点で事業を展開している業態であり、海外売上比率は54%で、各地域・拠点により新型コロナウイルス感染拡大の影響は事情が異なり、全体の見通しを出すことが困難であることはご理解いただきたい。影響をなるべく早く見極め、第1四半期の決算公表時(8月)には、公表したいと考えている。

また配当について、これは業績次第だが、基本的な株主還元の方針として、総還元性向を30~35%を目安として、これは変えていない。過去の配当実績の通り、18年3月期に欧州子会社で大幅な減益となった際も、減配せず配当金額を維持した。この実績から、当社の配当姿勢をご覧いただければと思う。今のところ、減配はあまり考えていない。

【次期中期計画】

Q: 中期経営計画NC2020は、21年3月期で最終年度となる。売上高は、かなり計画から遅れているが、利益面での達成はできそうか? また次期中期経営計画は、どのような方針で考えているのか?

A: 21年3月期目標について、売上高の達成はかなり厳しいと認識している。新型コロナウイルスの影響も非常に大きいですが、売上高は当初の計画と比べて、欧州子会社の太陽光ビジネス撤退の影響が200億円程度ある。利益については20/3期まで、計画値並みの実績を上げてきた。売上高が厳しい状況なので、利益面も厳しいが、営業利益率の実績は、想定を少し上回っている。利益率の向上によるカバーはもちろん、当社の機能を駆使しながら、新たな環境で生まれる需要を、商社という業態は取り込むことが十分可能と考える。顧客はこの状況で色々な課題が生じており、その課題に対して応えていくという当社の本来の業務を遂行するなかで、知恵を絞って、特に利益面では計画目標に近づけていく

い。

次期中期計画の策定はこれからである。長期ビジョン IK Vision 2030 のなかで、現中期計画 NC2020 はその一里塚である。次期中期計画は次のマイルストーンとなるため、NC2020 に概ね沿った方向となる。今の変わった事業環境のなかで、何ができるかということを考え、今期中に発表したい。

【新型コロナ影響】

Q：合成樹脂事業に注目している。コンパウンド製造事業をツールとして、自動車分野などのビジネスを拡大しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響は、どの程度か？

A：合成樹脂事業、なかでもコンパウンド製造事業は、当社の事業を特徴づける事業の1つである。自動車ビジネスは、20/3期に新型コロナウイルスの影響を大きく受けている分野である。コンパウンド製造加工拠点は7カ国8拠点にあり、多くは東南アジアにある。特に影響が大きいのは、工場稼働が停止していたマレーシア、フィリピン、メキシコである。フィリピンはOA向けが多く、3月下旬から停止していた。メキシコは主に自動車向けで4-5月の2カ月間、工場を停止せざるを得なかった。自動車メーカーの生産復活とともに、当社工場の稼働は上がると思っている。メキシコ工場も6月初旬から稼働再開させたばかりであり、21/3期第1四半期の影響は大きいものがあるかと思うが、順次正常な稼働に戻ることを期待している。

【中国の樹脂コンパウンド事業】

Q：樹脂コンパウンド工場について、中国の1工場を閉鎖するが、今後の中国戦略を教えてください？

A：華南工場は、環境規制の影響があり、工場の継続ができない状況となったため、稼働停止を進めている。華北工場は、稼働の面では新型コロナウイルスの影響をほぼ受けていない。今後について、華南工場停止の分は、一部外注で行い、残りは華北工場や他地域の工場に振り分ける。自社工場にこだわることなく、場合によってはアライアンスも活用しながら、販売戦略を立てていきたい。

【21/3期見通しへの影響】

Q：21/3期の定量的な見通しは難しいが、特に打撃が大きい事業は上位から並べるとどうか？

A : 地域的に一番大きいのはインドで、自動車を中心に取り組んでおり、3-4 月は 90% 減少する事業もあった。生活産業事業は、回転すしチェーン向けの寿司ネタの提供が 1 つの大きな柱だが、外食向けがピークで 7-8 割減なので、影響は大きい。一方、スーパーでは、包装材関連など若干の需要増が見込める。外での需要、たとえばレジヤード関連などの需要はマイナスの影響が出ている。

逆に F P D 関連は、20/3 期にプラスだったが、これは需要の先取りなので、少し遅れた時期に反動が来ると思う。

【自動車・食品・旧住環境事業】

Q : 自動車業界は厳しい状況だが、半年前の説明会では、まだシェアが低いので、ある程度カバーできると話していた。現在はどうか？また、遅れている食品・旧住環境事業への対応はどうか？

A : 厳しいことは変わらないが、前回の説明の通り、当社の自動車業界でのシェアは高い状況ではなく、20/3 期においても国内で新規口座を獲得した。21/3 期が厳しい状況には変わらないが、その中で当社がシェアを伸ばすことは十分可能であり、前回と見方は変わっていない。

遅れが目立つ食品事業で、例えば農業関連は、人の力で時間軸が変えられないところがある。昨年、北海道余市でブルーベリーを初収穫した。順次、収穫量は上がっていく。今年、数字は小さいが、収穫が 1 千万円、来年には億円単位になるだろう。遅れた時間軸なりに着実に進んでいくのが食品分野である。旧住環境事業は、業界全体が非常に厳しい環境であり、20/3 期から化学品事業に統合した。統合のメリットを出すことに方向を切り変えているので、新しい化学品セグメントとして目標達成することにまい進している状況である。